

吉田愛美の ソロモン便り No.2

(運営委員、ソロモン在中)



太平洋に浮かぶソロモン諸島。人口約60万人のうち25歳以下が約4割という若い力に溢れた国です。子どもたちは裸で海に飛び込んだり、木になっているマンゴーを取ったり、野原でサッカーをしたり、のどかそのものの南国の暮らしですが、子どもたちを取り巻く現実はその甘くはありません。

36年前にイギリスから独立したこの国では教育も英国式です。6年間の小学校、日本の中学高校に当たるセカンダリースクール。国立の短大と、南太平洋の各国がお金を出し合って設立した大学がひとつずつあります。ソロモンの親は総じて教育熱心ですが、学費が高く、その捻出に四苦八苦する人も少なくありません。また例えば大学を出ても失業率が高いので、良い職業につける保証はありません。首都ホニアラなど都市部では、1クラスの人数が50人以上で机も教科書も足りず、すし詰め教室で2人で一冊の教科書を使っています。

一方地方では、道が整備されていないため、雨が降ると道がぬかるんだり普段歩いて渡る川が増水して危険なため、学校に行けなくなってしまいます。また地方の村には銀行が無いので、月2回の給料日には、なんと先生が町の銀行に行くために休講となってしまいます。

と、お世辞にも教育環境が整っているとは言えませんが、節目に行われる進級テストはワンチャンス。もし失敗すると、学校を辞めないといけません。その他14、5歳で妊娠し学校に行けなくなる女の子も多く、問題となっています。

子どもたちの笑顔を守り、未来を守るため、ユニセフはもちろん、セーブザチルドレンなどの国際援助機関も活動しています。日本のJICAも保健・教育・環境など様々な分野で活躍しています。ボランティアの友人たちとの交流を通じて実感するのは、ユニセフのモットーである「自立」を促す援助の大切さ。ソロモンの子どもたちが夢を失わずにいられる社会の実現を願わずにはられません。



ホームページをご覧ください!

昨年ホームページを充実させました。いろんなイベントを写真入りで楽しくお知らせしています。今年も頑張ります。

宮崎県ユニセフ協会 [検索](#)

編集 後記

ユニセフみやざきニュースNo. 13を桜の季節に皆様にお届けできますこと、スタッフ一同喜んでおります。一面の「救われた命9000万人」に明るい希望が湧いてまいりました。小さい力を集結して大きな成果に!の精神で、宮崎県ユニセフ協会も一歩ずつ前進してまいりたいと思います。皆様のご協力に感謝を申し上げ、編集後記とさせていただきます。(運営委員 大浜)

ユニセフ賛助会員募集中!

賛助会員は、世界の子どものためにさまざまな活動を行っている(公財)日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。会員になると、会員証を発行し、機関誌「ユニセフニュース」(年4回発行)をお届けします。

なお、会員期間は入会から1年間です。団体会員のみ、毎年1月から12月が会員期間です。

○一般賛助会員…個人ならどなたでも
年間 **10** 5,000円

○学生賛助会員…18歳以上の学生の方
年間 **10** 2,000円

○団体賛助会員…団体・法人・企業
年間 **10** 100,000円

●賛助会費は税額控除の対象になります。

ユニセフ
みやざきニュース

おりいぶ

☆すべての子どもたちの
笑顔のために!☆

2014年4月発行 No.13

unicef
宮崎県ユニセフ協会

救われた命 9000万人 —1990年以降—

ユニセフは昨年、2012年に亡くなった5歳未満の子どもたちの数が年間660万人にまで減ったと発表しました。

子どもの命を救った取り組みとは?

- より効果的で安価な薬が開発され治療に利用されるようになったこと
- 母親の栄養改善や母乳育児により胎児・乳児が病気に対する抵抗力をつけたこと
- 母親の教育が高まり、出産間隔が長くなり安全な出産ができるようになったこと
- 貧しい家庭に必須なサービスを届けたこと
- 政府の保険制度や福祉制度が拡大されたこと



保健指導を受ける母親



予防接種を待ちながら母親と遊ぶ子ども(ルワンダ)

子どもの死亡原因の多くは「栄養不良」です。エチオピア政府はまず栄養の大切さに着目しました。そして、5歳未満児の死亡率を1000人あたり204人から68人にまで下げることに成功しました。具体的には

- 貧しい人たちのセーフティーネットの整備
- 乳児のための栄養プログラムの拡大
- 微量栄養素の提供と重篤な栄養不良の治療
- 無料の保険サービスをまとめ、蚊帳の提供、肺炎治療の提供、家族計画へのアドバイス、下痢性疾患の治療

といったエチオピア政府の社会保護政策がありました。

例えば、干ばつなどで作物が収穫できないとき、食料を支援するだけでなく、雇用の場を提供したり、現金補助を行って、人々の暮らしの安定に寄与するよう工夫しました。また、重度の栄養不良を村レベルで防げるよう「保健の日」に微量栄養素のサプリメントを配り、乳幼児の栄養摂取の改善に努めています。こういった運動を進めて達成させた裏には、ユニセフの支援や努力がありました。エチオピアのこの成功例が、世界の他の国々にとっても良い「モデルケース」となることでしょう。

速報 フィリピン台風30号 — フィリピン台風被害

2013年11月8日、フィリピンを通過した台風30号は、レイテ島を中心に甚大なる被害をもたらしました。ユニセフは、フィリピン国内で備蓄していた支援物資と資材を早急に送り出し、被災者たちに配布する手配をしました。また、デンマークのコペンハーゲンの物資供給センターからは、1万世帯向けの物資、130万米ドル相当分が飛行機で送り出されました。これらの物資の中には、浄水剤、石鹸、医療キット、ビニールシート、微量栄養素のサプリメントなどが含まれています。

水や食糧の配布がひと段落した後は、子どもたちの心理的ケアや教育再開等が続き、予防接種の実施や水と衛生プログラムの強化などが図られています。

(unicef news 2014 冬号より)

